

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	日々のケアにおいて理念を中心におき、理念を共有しながら、理念の実現を目指したい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		家族会の発足または定期的な利用者の家族との意見交換会などの開催をしてさらに連携を深めたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	まずは事業所の存在を知ってもらい、隣近所の人が気軽に立ち寄れるような活動を行っていききたい。地域の行事に参加したり、認知症について共に学べる機会を作っていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の活動に積極的に参加し、交流することにより、地域の一員として貢献していききたい。

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	隣接する系列通所施設を利用している地域の高齢者の訪問(徘徊)などにも関係者と連携して安全確保などの対応をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価制度の主旨、意義を職員に伝え、サービスの質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所から運営状況、利用者の状況などを報告し、市町村や地域代表の方など出席者からの情報や質疑応答を通して、事業所および職員の質の向上につながるように努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と連携を図り、質の向上に努めたい。市町村担当者とも連携できるよう努力していきたい。	○	市町村と協力しながらより良いサービスができる施設となり、地域に貢献できるよう努力していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と一部の職員は、権利擁護事業や成年後見人制度について概要を理解している。必要と思われる利用者に対しては活用できるように支援することができる。職員にはマニュアルを備え付け情報を提供している。	○	研修は職員の一部に限られているため、研修で学んだ内容をスタッフ全員で共有し、必要な時に適切な支援ができるよう共に学びあう機会を作っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを備え付け、職員に認識、周知を行っており、機会あるごとに話をしている。職員間でも注意を払い、防止に努めている。		

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項については最低でも1～2時間をかけて説明している。家族や契約者の疑問、不安などをなくし、納得してもらってから契約をおこなっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者から意見、不満、苦情などを言いやすいように、職員の方から積極的に声かけするように努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に職員の方から積極的に利用者の近況などを報告・相談するように努めている。場合によっては電話で近況報告・相談などもおこなっている。金銭管理については、個々の状況にあわせて、家族と相談しておこなっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から意見、不満、苦情を言いやすいように日頃から声かけしている。改善が必要な事柄については職員間で話し合い改善できるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当番職員によるミーティングを随時おこない、職員からの意見、提案を聞き、利用者のケア、業務改善に反映させるように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者、職員間で相談しながら柔軟に対応するようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が重要を十分に認識しており、引継ぎの期間を設けるように努めている。新規職員が馴染むまで、馴染みの職員が間に入って関わるように努めている。		

記入日:平成20年3月27日

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修受講はなかなか計画しにくいですが、OJTも重要な研修と捉えており、介護の知識・技術について日頃からその都度、介護の知識・技術の原理、原則について話し合うように努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>沖縄県グループホーム連絡会に加盟し、業界、他の事業所の情報などを得るように努めている。定例会議、勉強会、見学会にも参加するように努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>できるだけ休みの希望を調整したり、残業なども必要最小限にとどめるよう努め、過重労働にならないように努めている。記録様式などを記入しやすい工夫してできるだけ業務負担を軽減するなどしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>賃金の保証、個々の努力、実績、勤務状況に応じた定期的昇給、賃金アップ、賞与の確実な支給などに努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人自身から話を聴く機会を持ち、本人の言動などから本人の心理状態や要望なども理解することにも努め、同時に受け止めるように努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族等と事業所の役割、家族の役割、連携・協力体制のあり方などについて話し合うなかでできるだけ家族の不安を取り除き、要望に応え、信頼関係を築くよう努力している。</p>	

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内外のサービス事業所との情報交換、連携を心がけ、相談を受けたときには、本人、家族の話をよく聴いた上で、認知デイサービス、小規模多機能、訪問介護など他のサービスの情報も提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得できるよう事前に家族や職員と話し合いを重ね、本人の状況に応じて、体験利用をしてもらったり、家族の面会を増やしたりして、できる限り不安を最小限にするようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の喜怒哀楽の感情が大切なものであると認識しており、利用者を人生の先輩として尊敬し、生活や子育ての知恵、慣習等を学ばせてもらいながら、支えていくように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の精神状態や健康状態の変化等に家族と共に一喜一憂し、家族と対等な立場で、連携・協力して本人を支援するように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が家族に対して不信感等を持ったりしないよう、家族に不利になるような発言を慎み、本人と家族のよりよい関係を築くように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の写真や自宅で使用していた小物、身の回り品、備品などの持ち込みなどを家族にお願いして、事業所での精神的安定を支援するように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂やリビングでの座席配置なども調整して、利用者同士が孤立したり、衝突したりなどしないように気配りしている。状況によっては職員が仲介してなごやかな雰囲気を作り出すように努めている。		

記入日:平成20年3月27日

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、築き上げた関係を継続できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の職業暦や生活暦をできるだけ情報収集し、日常の係わり合いを通して本人の現在の希望や意向を把握するようしており、可能な限り本人の希望や意向にそうように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や支援者から積極的に情報を得るようしており、日々の関わりの中からも本人のことを理解するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	健康チェックや生活記録、申し送り、職員同士の情報交換から利用者の現状・変化を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族と話し合いをもち、必要な場合は他のサービス事業者の関係者からも情報を得て、介護計画を作成している。職員で話し合い、意見交換も行い、対策、留意点を記載している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活記録、申し送り、職員同士の情報交換から本人の状態変化を早めに把握し、本人、家族、その他関係者と話し合いを持ち見直し、評価を行うよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子、変化等を個別に記録することで、情報を共有し、日々の支援、介護に役立て、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況、要望に応じて、可能な限り柔軟に対応、支援するように努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在、行っていない。	○	法人全体の課題でもあり、時間をかけて取り組みたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の公的なサービスの利用は制度上いろいろと制約があり、基本的に取り組めていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、那覇市と「高齢者虐待緊急一時保護施設業務」の委託を受けることとなっている。	○	その他にも協働できるものがあれば取り組みたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々看護師に心身状態を報告し、必要時にかかりつけ医を受診できるよう支援している。かかりつけ医での定期受診の際などに必要に応じて健康チェックのデータなども準備して診断の参考にしている。		

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者を尊重し、誇りやプライバシーを守りながら、対応を行っている。記録、写真、その他プライバシーに関わる個人情報の取扱いは十分に留意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自身の気持ちを表現できるよう働きかけたり、事柄に納得して自己決定できるよう支援している。利用者の希望に添えない時にも本人が納得できるまで説明を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだ、充実はしていないが、洗濯物たたみ、コーラス、食器洗い、手作業などのいくつかのプログラムを準備して、基本的に利用者が望む事、楽しめる事を一人ひとりのペースを大切にしながら、誘導・支援している。	○ さらに活動、機能訓練、行事などを充実させたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その方の以前の生活にあった身だしなみやおしゃれができるよう配慮している。理容、美容についても家族と本人の意向により選択してもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を活かしながら、楽しみながら準備や食事、片付けを行ってもらっている。役に立っているという充実感を感じてもらえるよう感謝の言葉をかけることを心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在飲酒、喫煙をされる人はいない。本人の好物を家族や日々の生活の中で聞き取り、楽しめるよう工夫している。家族から好物の差し入れもある。	

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	プライバシーを保護しながら、チェック式(時間・排泄有無)を職員が確認しながら、できるだけ失敗を防いでいる。失敗してしまった際も本人を傷つけないよう配慮した対応を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一応一日置きを目安にしているが、本人の状況や希望、タイミングに合わせて入浴できるよう心がけ、支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間良眠をとっていただく為になるべく活動、雑談を促しているが、本人から希望があれば時間関係なく休息を行わせている。又前日の睡眠状態を考慮しながら休息をとっていただくこともある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や家族情報から好んで行ってくれる作業をお願いし、作業後には感謝の言葉をかける様にしている。利用者によってコース、ドライブで気分転換を行う時もある。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金銭管理ができる方には、本人や家族の希望に応じてお金を所持してもらい、支援を行いながら、使ってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分転換を目的としたドライブ、散歩等を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣、買い物、ドライブ等、外出を支援している。	○	職員が定期的に外出を取り入れた活動を計画していきたい。

記入日:平成20年3月27日

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたり、手紙を書いたり、希望者には随時支援している。年賀状は利用者と共に作成し、家族等に送っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の家族・知人・友人等の面会・来訪は歓迎しており、お茶などもだして利用者と一緒にゆっくりとくつろいでもらえるように努めている。	○	家族が定期的に回って来れる様な環境を整えたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを備え付け、職員に目をとってもらい、身体拘束、虐待について再認識してもらい、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。居室にはカギをかけていない。玄関はできるだけ開放するように心がけ、安全確保のために必要最低限度の時間帯に施錠するよう努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、さりげなく利用者全体を把握する様にしている。夜間、利用者の状況を把握し、見回りを行っている。音、動きを感じたらすぐ対応できるようにしている。特にふらつき転倒に注意している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	原則として、日常必要な物品は各居室にセットするようにしている。異食、不潔行為など問題が発生した場合に居室および共用空間の物品を点検して、必要最小限度の物品の保管場所、保管方法をかえている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状況を把握し、見守りの徹底、職員間の声かけ・連携でできる限り未然に防止するように努めている。ベッドサイドの床に転倒防止のため滑り止めシートを施している。特に転倒の危険性が大きい場合、家族の了解を得て、居室にセンサーを設置し、事前に動きを察知するように工夫している。		

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	主治医、家族、救急への連絡体制をとっている。応急手当や初期対応の訓練等は法人としても計画中である。	○	応急手当や心肺蘇生法の勉強会、訓練等を実施したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	現在行っていない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりうるリスクに応じ、施設での状態、状況を家族に口頭で説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には職員間で情報交換し、必要時には看護師、医師に連絡できる体制をとっている。緊急性がない場合も申し送り等で確実に情報を共有できるよう努めている。	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には職員間で情報交換し、必要時には看護師、医師に連絡できる体制をとっている。緊急性がない場合も申し送り等で確実に情報を共有できるよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの服薬介助を行い、それに伴う、症状の変化に留意している。服薬の変更等連絡事項は確実に行われるよう努めているが、薬の目的や副作用等の理解はまだ十分とは言えず今後の課題と考えている。	○	勉強会などを実施するなどして知識・理解を高める
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の排便の状態を把握し、水分や食事、運動等に配慮している。必要に応じ看護師等と相談を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後の口腔ケアを利用者の状態や力に応じ、支援している。口腔内や入れ歯の状態を把握し、必要時には家族に連絡し、受診につなげることもある。		

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立予定表を作成して栄養士にも助言をもらっている。食事をチェックし、利用者一人ひとりの疾病、身体状況にあわせて栄養摂取や水分確保に努め、栄養バランス、塩分量等にも配慮している。定期的に体重を計測し、増減等にも留意している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを備え付けてあり、職員に目をおしてもらっている。インフルエンザや食中毒などの流行の兆しがあると、注意喚起をしている。法人内の医療機関と連携をとり、予防や対応に取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は除菌し、食器類は乾燥機にかけ殺菌している。調理担当者はこまめに手洗いを徹底して行うようにしている。冷蔵庫内の状況、食材の状態、賞味期限の確認をこまめに行っている。食中毒予防マニュアルも備え、職員に目を通してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は常に安全に移動できるよう広くスペースを確保している。靴を履く、取る際に座れるように腰掛を置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の照明や音量に配慮しながら居心地の良い空間づくりを目指している。室内でも季節感を感じられるような工夫をしていきたい。	○	利用者、家族、見学者等から指摘があれば即対応していきたい。職員間でも意見交換し、良い環境作りを目指していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に、椅子や机、ソファ、テレビ等を配置し、利用者が思い思いに過ごせるよう居場所をつくっている。		

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で使用していた身の回り品や家族の写真などを持ってきてもらいできるだけ利用者が落ち着いて過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、共用空間の温度は利用者の意見を聞き、職員間でも相談して調整を行っている。汚染物の臭いがこもらないように速やかに処分する等工夫をしている。窓を開放し空気の入れ替えをしている。リビングには空気清浄機を設置している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すり等設置し、家具の配置等を工夫し、できる限り安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力を把握し、わかる力を活かした環境をつくり、混乱や失敗を最小限にし、本人の力が発揮できるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りの環境の整備がまだ不十分で活動するに至っていない。	○	植物や生き物を見ながら季節感を感じたり、利用者同士が話が弾み心豊かに過ごしたり、心が癒される空間作りを目指したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)